令和３年度　国語　授業改善推進プラン

大田区学習効果測定　結果の分析

４ 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を上回った。活用においては目標値と区・全国平均を下回る。説明文及び物語の読み取りにおける正答率は各平均を上回るが、領域別の書くことにおける正答率は各平均を下回る。

５ 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎においてわずかに目標値・区平均・全国平均を上回る。漢字を書く・読む正答率が平均値を大きく上回る一方、物語・説明文の読み取りの平均値は区平均を下回る。

６ 年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を上回った。話し合いをもとに活動報告を書き直すことにおける正答率は各平均を下回る。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
各学年で目標値を上回った。どの学年も前学年の既習漢字の読み書きが身に付いている。	各学年で目標値をほぼ上回っている。４・５ 年においては、指定された長さで文を書くことや、自分の意見を判断して書く問題の正答率が低い。	６年生においては各平均を上回っている。４・５年生は段落構成を整えて文章を書くことに課題が見られる。

課題<今回の調査結果から>

〇文章構成の把握(主語、述語、修飾語)という、すべての領域の言語活動の根本になる力に課題が見られる。

〇中心となる語や文を見つけて要約することや目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題が見られ、個人差が大きい。

○段落構成を意識して書くことに課題があり、記述式の問題において無回答の児童が多く、主体的に取り組む態度を育てる工夫が必要である。